

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「豊かなかわりを通して 共に高め合い 主体的に取り組む子」
 (知) 互いに学び合うことを通して、自ら進んで学び続ける力を育てます。
 (徳) 挨拶を大切に、他への感謝の気持ちや他を思いやる態度を育てます。
 (体) 自他の命を大切に、心身ともにたくましく生きる力を育てます。
 (公) 地域と社会に進んでかわろうし、他者と協働する力を育てます。
 (開) コミュニケーション力を高めて、社会の変化に対応できる力を育てます。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

＜問題発見・解決能力＞
 ＜コミュニケーション能力＞
 ＜自分づくりに関する能力＞

具体化した資質・能力

- ・問題を発見し、主体的に解決する力
- ・伝え合うことで考えを深化させる力
- ・解決の過程を楽しむ意欲・態度
- ・他者の思いに寄り添う心
- ・夢や目標に向かって追求する意欲・態度

中期取組目標

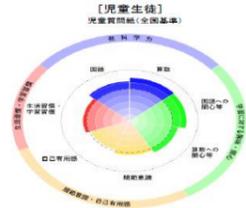
○学校全職員で活力と魅力のある学校づくりを目指します。
 ・教科分担当の拡充とICT活用で、「子どもが考える」授業づくりを推進します。
 ・学校・まち・地域の良さを取り入れ、子どもの実感を大切に学習づくりをめざします。
 ・学校保健委員会、体育朝会、食育、学習などを通じ児童の体力と健康意識の向上に取り組めます。
 ・挨拶を大切に、様々なかわりやコミュニケーションを通して多様な考えを認め合える態度を育成します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①GIGA2年目として、ICTを活用した授業づくりをさらに進め、可能性や課題を共有し授業改善につなげる。②重点研究テーマ「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子」を軸に、協働的な学習活動を充実させ、コミュニケーション力の育成をめざす。
担当	研究研修部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態
 教科学力、学習意欲に対する興味・関心等は全観点で全国平均を上回っている。本校児童は全体的に、日々の学習内容をよく理解しているといえる。全体的に高い正答率だが、基本的な問題で正答率が低い部分も見られる。国語に関しては、「話すこと・聞くこと」に関する正答率が特に高かった。一方、漢字や言葉の使い方に問題がある問題は他と比べると低かった。算数でも、全領域で正答率が全国平均を上回ったものの、領域による正答率のばらつきも見られる。自己有用感について、平均より低い面が見られる。



(2)これまでの学校の取り組み状況
 昨年度、一昨年度と学校として国語科の指導に焦点を当てて授業研究を行ってきた。話し合って考えを深めることに力を入れ、進んで友達を話し合ったり、目的に応じて話したり、聞いたりしようとしている児童が増えた。国語の学力調査で「話すこと・聞くこと」の正答率が高かったことと関連していると思われる。また、GIGA推進1年目として、ロイノートスクールを中心に、目的に応じて調べたり、自分の考えをまとめ、プレゼンテーションを調べるなどに取り組んできた。

今年度の目標

国語科を中心に、「自分ごと」として学習に取り組む、主体的に自分の言葉で表現する指導の工夫をすることで、研究テーマの「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う子」を目指す。また、その中でICT機器の効果的な使用をしていく。

目標を実現するための具体的行動プラン

＜ICTを活用した授業づくりや授業改善＞
 ・職員での効果的なICT機器の活用について、職員で共有し、自分の考えを豊かに表現するためのシンキングツールなどを活用していく。
 ・情報モラル、情報リテラシーの学習を進めていく。
 ・これまでの取り組みを職員で情報共有し、より効果的なICT機器の活用について研究していく。その中で、子ども達がICT機器の活用場面について取捨選択できる力を育てる。

上半期

＜協働的な学習活動を充実させ、コミュニケーション力の育成をめざすための活動＞
 ・毎時間の学習の中で、「考えをもつ」、「広げ、伝える」、「豊かに表現する」というステップを大切に、児童自身が自信をもって授業に取り組めるようにしていく。
 ・学習時間の中で「自分のため」を子ども自身が設定し、授業の終わりに振り返ることで自分に付いた力などを確認し、次回の授業へもめあてなど見通しをもつようしていく。そこで、学習を「自分ごと」として、
 ・学習活動の「相手」や「目的」をはっきりさせて指導する。
 ・日常から、積極的な話の聞き方や語彙を増やすような指導を行い、自分の考えをのびのびと発言し、認め合えるような雰囲気作りをしていく。

下半期

＜ICTを活用した授業づくりや授業改善＞
 ・授業内での効果的なICT機器の活用について、職員で共有し、自分の考えを豊かに表現するためのシンキングツールなどを活用していく。
 ・情報モラル、情報リテラシーの学習を進めていく。
 ・これまでの取り組みを職員で情報共有し、より効果的なICT機器の活用について研究していく。その中で、子ども達がICT機器の活用場面について取捨選択できる力を育てる。

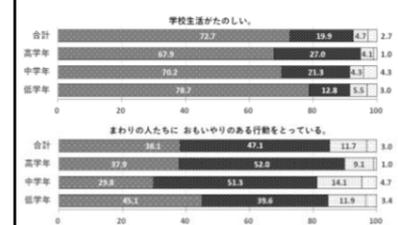
＜協働的な学習活動を充実させ、コミュニケーション能力の育成をめざすための活動＞
 ・学習計画を児童と立て、見通しをもった学習活動にする。そのために、学年や低・中・高ブロックで検討しながら導入やワークシートなどの工夫をする。
 ・ペア、グループ、全体など、様々な場面で児童同士のやり取りすることができる場の設定を工夫する。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ペア学年活動、児童会活動、登校班、行事など様々な交流を通して、他者への共感や思いやりを育み、自分のよさを実感できるようにする。②道徳、全校行事、代表委員会、人権週間、朝会などを通して、学校や学級の諸問題や解決を考える中で、社会への参画意識や生活の主体者としての意識を高める。
担当	児童支援部

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
 横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査や年度末に行った「新小アンケート(児童版学校評価)」では、学校生活が楽しく、安心できる場所であると答えている児童が、共に80%を超えており、学校生活の良さを実感している児童が多いことがわかる。あいさつをすすんで行っていると答えた児童も一昨年度に比べて増えてきており、児童会活動を中心とした活動の成果を感じる。また、「自分のことが好きだ」と答えた児童も多く、様々な交流や活動を通して、自分の良さを感じている様子が見える。その反面、周りに思いやりのある行動をとっていると答えた児童は、「そう思う」の割合が、他の設問に比べると低く、他者を思いやる気持ちが低い傾向にある。



(2)これまでの学校の取組状況
 なかよしペア活動の活動では、運動会や新体力テストなど、様々な場面で協力したり助けあったりする機会を設けてきた。昨年度、一昨年度は、一斉休校や分散登校の時期があり、「学校再開スタートプログラム」の実施をきっかけに、YPの定期的な実施を全校で行ってきた。また、教師主体であったいじめ防止月間の活動を、教育課程に位置づけ、児童がいじめ防止に対して主体的に取り組むことができるようにした。また、「特別の教科 道徳」では、学校行事や各教科との関連を図った指導を行ってきた。また、メンターチーム活動等を活用し、指導方法について研修し、授業力を高めてきた。

今年度の目標

様々な教育活動や交流活動において人権尊重の精神を基盤とした教育を行うことを意識して取り入れることを通して、子どもの自尊感情を育て、自分も他人も大切にすることを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

＜他者への共感や思いやりを育み、自分のよさを実感できるような活動＞
 ・児童会スローガンを達成するような取り組みとして、進んであいさつをする機会や、異学年同士が交流する機会を設ける。
 ・「子どもの社会的スキル横浜プログラム(Y-P)」を教育課程に位置づけると共に、その時の子どもたちの実態や課題を児童支援部が中心となって丁寧把握しながら、プログラムを選定していく。

上半期

＜社会への参画意識や生活の主体者としての意識を高めるような活動＞
 ・「特別の教科 道徳」では、年間指導計画を活用し、学校行事や各教科との関連を図った道徳科の指導を行う。また、全学級の道徳授業公開を、授業参観で年1回以上実施し、家庭・地域の意識を高める。
 ・いじめ防止の授業や、横浜こども会議に向けた取り組みを教育課程に位置づけ、子どもたちが「誰もが安心して過ごすことができる学級・学校づくり」について主体的に考える機会を設ける。

下半期

＜他者への共感や思いやりを育み、自分のよさを実感できるような活動＞
 ・運動会前後やなかよしウィーク等の異学年同士が交流する活動を通して、集団の中での役割を育むようにする。
 ・「子どもの社会的スキル横浜プログラム(Y-P)」では、特に「仲間づくり」や「集団づくり」に関するプログラムを選定し、子どもたちが安心して生活できる学級・学年・学校風土を醸成する。

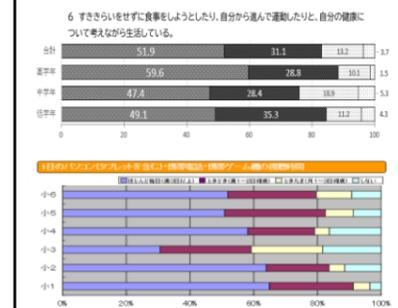
＜社会への参画意識や生活の主体者としての意識を高めるような活動＞
 ・横浜こども会議や地区懇談会などをきっかけとし、「いじめ防止月間」に向けて、代表児童によるいじめ防止プロジェクトを立ち上げる。そして、プロジェクト児童が中心となって、いじめ防止月間の取り組み内容を考えたり、全校に発信したりすることを通して、児童一人ひとりがいじめ防止に主体的に取り組めるようにする。
 ・「人権月間」では、特別の教科 道徳で特に「思いやり」の内容に関連した教材を扱う。また、出前授業などで福祉体験に取り組む機会を設け、社会との関わりに気づくことができるようにする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①体育朝会や体力づくり週間を実施し、日常の中で体を動かすよさを味わえるようにする。②自分の体や健康に関心をもち生活の主体者としての意識を高められるよう、6年間を通じて系統的な食育指導や保健指導を行う。
担当	保健安全部・体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
 年度末に行った「新小アンケート(児童版学校評価)」では、自分の健康に関心をもっていると答えている児童が、80%を超えているが、横浜市体力・運動能力調査の結果をみると、5年生以外の学年で、「ほとんど毎日運動している」と答えている児童が、50%を切っている。学年が上がるにつれて、ゲームやスマートフォン、パソコンを長時間視聴している児童の割合が増えていたり、学校給食の残量が多かつたりする状況が踏まえると、高い意識に対して、実際の行動に課題が残る。



(2)これまでの学校の取組状況
 1月から2月に、体力づくり週間を実施し、授業時間内や休み時間での継続的な取り組みとして、短縄や長縄、持久走に全校で取り組んだ。短縄の回数等をカードに記録していき、目標をもつて取り組めるようにした。その反面、毎月行っていた体育朝会が、コロナ禍でこの3年間実施できていない。

今年度の目標

子どもたちの発達段階に合わせ、運動を楽しみながら、自らの課題に向けて目標を設定し、「動きを継続する力」を身に付けられるようにする。また、健全な食生活を営む態度を育てるために、食や体に関する指導を通して、子どもたちが自分の体に関心がもてるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

＜日常の中で体を動かすよさを味わえるような活動＞
 ・全校ではなく、ペア学年で取り組むなど、場の設定を工夫しながら月1回の体育朝会を実施する。短縄や持久走など、体育の指導計画と関連付けた活動を計画し、子どもたちが体を動かす機会を設ける。
 ・週に2回、休み時間に竹馬や一輪車、フラフープを使えるようにし、子ども達が授業以外にも体を動かすよさを味わうことができる機会を増やす。

上半期

＜自分の体や健康に関心をもち生活の主体者としての意識を高められるような活動＞
 ・自分が高めた能力に関心をもつために、横浜市体力・運動能力調査の結果を分析する時間を作る。
 ・仲間との対話による課題解決や、ICT機器の活用等、子ども達が主体的に活動に取り組むことができるような体育の授業展開の工夫をする。
 ・野菜の皮むき体験を取り入れるなど、栄養教諭と積極的に連携し、生活科や他教科との関連を図った指導を行う。

下半期

＜日常の中で体を動かすよさを味わえるような活動＞
 ・前期から引き続き、月1回の体育朝会を実施する。その中で、ペア学年の児童や、クラスの児童の動きのよさに目を向けるようにし、自分の体力づくりに活かすきっかけづくりをする。
 ・自分の体や健康に、より意識をもてるよう、1月に体力づくり週間を実施し、持久走や短縄、長縄などを行う。その際、記録カードを学校全体で統一したものを用意し、子ども達が自分自身で目標を設定しながら取り組むことができるよう工夫する。

＜自分の体や健康に関心をもち生活の主体者としての意識を高められるような活動＞
 ・学校保健委員会に向けて、保健委員会の児童が中心となって課題設定を行うなど、児童主体で自分たちの体や健康に関心をもちような活動を行う。
 ・自分たちの食べているものや栄養に対して、普段から興味をもつことができるよう、「Today's School Lunch」のコーナーを給食室前に掲示したり、旬の食材などについて栄養教諭が給食中に放送したりする。また、同様の内容について、定期的に学校HPに掲載することで、家庭の意識を高める。